

AIを導入する際の「導入のしやすさ」と「効果」を示す分布図

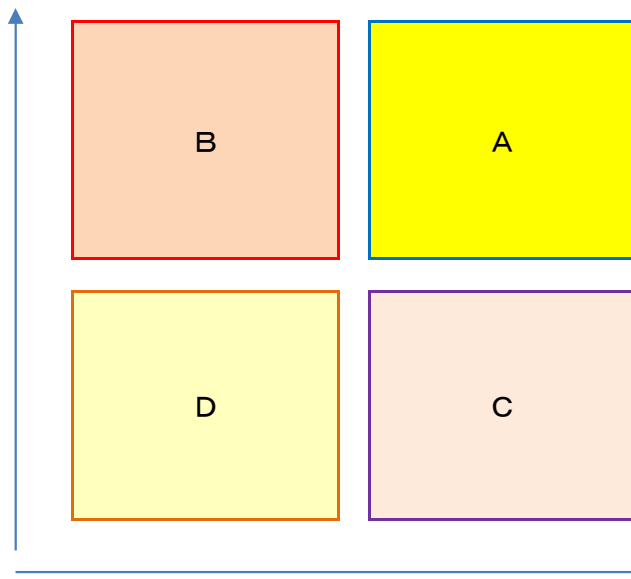
導入のしやすさ

- ・AIは、事務によってベクトルが異なっており、その導入にあたっては、一律のしきい値を用いることは不可能。
- ・導入のしやすさ=コストの低さととらえ、コストが低ければ低いほど導入しやすいものとする。

検討の優先度 4段階

[凡例]

- A・・・直ちに(今年度中)に導入に向けた検討が必要
- B・・・数年中(2~3年度中)に導入に向けた検討が必要
- C・・・当分の間、導入に向けた検討の必要がない
- D・・・導入に向けた検討の必要はない



効果

- ・今まで出来なかったことができることによる効果
- ・作業に係る職員の労働時間の減少

「導入のしやすさ」と「効果」を測るめやすと評価及び評点のもととなる区分 等

縦軸	めやす	めやすとなる基礎項目	基礎項目に係る評価の観点	評点のもととなる区分	左記区分に係る評点
導入のしやすさ	導入費用の低さ	導入費用	低ければ低いほど、導入しやすい	1円~100万円、101万円~1,000万円、1,001万円~	100、50、10
	ランニングコストの低さ	ランニングコスト	低ければ低いほど、導入しやすい	1円~100万円、101万円~1,000万円、1,001万円~	100、50、10
横軸	めやす	めやすとなる基礎項目	基礎項目に係る評価の観点	評点のもととなる区分	左記区分に係る評点
効果	ある程度の処理すべき量がある作業	作業時間	処理に係る時間が多ければ多いほど、職員の作業時間削減の効果が高い	1件あたりの処理時間(分)	10分=1
		件数	処理すべき件数が多ければ多いほど、職員のすべき作業量削減の効果が高い	件数/年	10件数=1